

シグマ研究委員会
FP核データワーキンググループ会合議事録

日 時 昭和 54 年 11 月 22 日 10:30 - 17:30
場 所 原研本部 第 35 会議室
出 席 者 中嶋(法政大), 松延(住友原子力), 渡部(川重),
瑞慶覧(日立), 大竹(PNC), 五十嵐, 松本, 菊池, 水本,
中島(原研), 飯島, 村田, 川合, 吉田(NAIG), 山室(東工大)

配布資料 (1) JENDL FP 積分テスト
(2)-(5) Nd, Sm isotopes の再評価

回覧資料 最近の FP 測定データ, ENDF/B-5 FP ファイル状況, 他

議 事

1. 一般報告

JENDL-2 の状況(菊池), 核データ研究会予定(松本), JENDL-3 の検討小委(五十嵐), Covariance file についての P. Johnston 来日時の話(飯島), 12 月中旬の Bologna FP 会議予定(飯島) について報告があった。

2. FP 評価レポート作成(菊池)

28 FP 評価レポート原稿について, 菊池氏から, 11 月中にコメントを求める旨依頼があった。

3. ENDF/B-5 ファイル状況(菊池)

菊池氏が, 10 月末 Knoxville 会議出席の後, Schenter (HEDL) 達に会い, ENDF/B-5 の FP ファイル評価状況をたずねた。その状況報告があった。EBR-II 照射による Nd, Sm, Eu の捕獲断面積の積分データを使って adjustment を行ったとのことである。

4. JENDL FP 積分テスト結果および Nd, Sm 再評価(飯島, 渡部, 吉田)

配布資料に基づいて、説明があり討議した。

5. JENDL - 2 FP ファイル計画

JENDL - 2 FP ファイル作成の計画、スコープについて討議した。主な結果は次のようである。

- (1) スケジュールとして、1981年4月までに、ファイル化を終了する。その後は積分テスト、pseudo-FP作成を1982年4月までに終了する。
- (2) このスケジュールは、実証炉設計の本格化の時期、および NEACRP での burn-up benchmark と関連して妥当と考えられる。
- (3) 来年度(1980年度)作業として、(i)積分テストのシステム化、(ii)再評価がある。内容、分担については今年度末までに具体的にしておく。又、評価の手法、パラメタ決定法について、3月末までに決めて行く。
NDES、他ソフトウェアで必要なものは早く依頼するよう、要望を定める。
- (4) 再評価の進め方として、例えば元素毎に分担するやり方がある。その場合、担当者はその元素(isotope series)について、測定値をまとめること。光学ポテンシャル、レベル密度パラメタを定めること、CASTHY 計算を行いファイル化すること、までを一貫して行う。但し、光学ポテンシャルについては五十嵐氏、レベル密度は吉田氏、測定データは松延氏、等のように共通問題の responsible consultants をおいてはどうか。共鳴パラメタについては同じように行かないかも知れない。
- (5) 今年度は以後、NAIG川合氏を本グループのサブ・リーダーとしたい旨、飯島氏より発言があり、諒承された。

6. その他

今後の測定研究のスコープとして、中島氏から、原研では¹³⁹La(九大と共同)、^{107,109}Ag, Rb isotopes についての測定を計画しているとの説明があった。

^{79,81}Brの共鳴パラメタ測定はKnoxville conf.(大久保)で発表した。

山室氏から、京大炉では今後Th炉系に関係した測定が主になる予定との話があった。

次回：1月中旬